

鎌倉 パートナーズ



鎌倉市市民活動センター 広報紙 第90号 平成31年3月発行(季刊)

発行/編集: 鎌倉市市民活動センター

<http://npo-kama.sakura.ne.jp/ce/index.html>

リレートーク No.10

こんな市民活動しています!

～「守った森を楽しい森に」 試行錯誤が続く都市林の管理～



望月高明さん

認定 NPO 法人

鎌倉広町の森市民の会 常任理事

<http://kamakurahiomachi.org/>

リレートークとは: 鎌倉市で市民活動に取り組む人とその団体にスポットをあて、活動の様子を紹介するコーナーです。鎌倉らしい活動をされている方、地道にコツコツと頑張っておられる方がお近くにいらっしゃいましたら、リレーの輪に加わっていただきたいと思います。是非、お知らせください。

鎌倉広町の森市民の会は、20年以上前から腰越地区にある鎌倉広町緑地の保全活動を通じてこの緑地に関わってきました。2015年、市はこの緑地を「都市林」と呼ばれる都市公園として整備し、翌年私たちは鎌倉市公園協会と共同で緑地の管理を始めました。

私たちは公園の施設設備の管理の他、緑地内で活動する市民ボランティアの支援、子供たちの環境学習を主な目的に活動する「かまくら緑の探偵団」の運営、各種のイベントの企画・運営や広報などを行なっています。約700名の正会員・普通会員に支えられてこれらの事業を展開しています。

広町緑地は約48haの面積を持ち、尾根や斜面は自然林や二次林などで作られる樹林地、谷戸の低地には遷移が進む湿地と里山復元活動で復元された田畑があります。複雑な地形と水系は、小さなエリアでも異なった環境を生み、多様な動植物が生息生育しています。

都市林と呼ばれる公園は法律の改正で設けられてからまだ25年しか経っていません。設置例が少ないためどのような管理がよいのか試行錯誤を続けています。さらに緑地の自然環境の保全と生物の多様性の維持・向上がとても重要だと考えています。

来園された方には、もう少し綺麗に笹や草を刈ったら良いのではとか、樹木がうっそうとしていて見晴らしが悪いと感じられているかもしれません。しかし草や笹には蝶の卵があり、笹原に住む野鳥もいます。森の中にはフクロウが生息しています。草刈り一つ、枝落とし一つにも目的や作業の効果を検討しながら行っています。

この4月から新たに5年間の管理の受託が始まります。5年後に以前に比べて良くなったと皆様から言われるように努力を続けたいと思っています。さらに市内の他の緑地の保全活動グループと協力をして、鎌倉の緑の回廊を維持し保全したいと考えています。



(植樹祭の様子)

市民活動を推進するための「つながる鎌倉条例」が1月に施行されました。この条例では市民活動を進める力として「協働」の必要性が謳われています。本号では、現在進行形の多様な協働のかたちを紹介することで市民がつながることのメリットやつながる時に気をつけたいことなどを浮き彫りにしたいと思います。

「北鎌倉つるし飾りのある街」を企画・運営している「北鎌倉まちづくり協議会」の川上さんにまちづくりのための協働について伺いました。

■ 「北鎌倉つるし飾りのある街」が始まったのは。

観光客が少ない時期にまちを盛り上げるために2011年につるし飾りで観光客を出迎えようという企画がもちあがって「北鎌倉まちづくり協議会」の中に「北鎌倉つるし飾り委員会」が発足し、2012年から始まりました。

■ 初めから地域の協力を得られましたか。

このイベントに先立って継続開催してきた「匠の市」の実績が地域の信頼につながったと思います。「匠の市」は「北鎌倉まちづくり協議会」が2001年から周辺のお寺の境内などを借りて、北鎌倉在住のアーティストの協力を得ながらワークショップやコンサート、バザー、ウォーキングなどを行ってきました。2016年に諸事情により終了しましたが、この間培った地元住民や2つの商店会との連携が今につながっていると思います。地元のメンバーたちが北鎌倉の魅力をもっと広めたいという目的で結集した協議会だからこそ、商店会でも自治会でもないかたちで第三者的にまちづくりに関わったのが良かったと思います。

■ 継続の秘訣はありますか。

ゼロからつるし飾りを作るのはハードルが高いので、作り易いオリジナルキットを作家さんの協力で用意したり、貸し出せるつるし飾りも用意しました。当初の参加者は70軒でしたが、こうした仕組みを作ることで、今ではお店の独自作品も多く見られるようになり100軒に増えました。また有償の貸し出しをすることで維持管理の資金を作る工夫もしています。



■ 今後の展開はどのようにお考えですか。

若い人が経営する新しいお店も増えていきますし、今年から地元の北鎌倉女子学園にも運営に協力をいただいています。今後も活動を持続させるにはどうしても若いパワーが不可欠です。それから店舗だけでなく、ご協力がいただけるなら一般住宅にも参加の輪を広げたいと考えています。

30年度かまくらファンド助成金を獲得した「今泉台オレンジライン」の田島さんにお話を伺いました。

■ ファンド応募のきっかけは。

私たちは住民が楽しめるイベントを企画・開催したり、地域の居場所づくり、子育て支援、高齢者の健康維持などを通じて皆がいきいきと暮らせる地域づくりを目指しています。今回の応募は町内のすべての子どもが参加できるハロウィンイベントを新たに立ち上げる資金を得るために地域の11団体と連携して応募しました。

■ 町内の多様な利害関係者をまとめていくコツはありますか。

私たちのやりかたは、子ども会、町内会、商店会、介護施設などの関係者をまとめる旗振り役になるのではなく、関係者の間をくっつける接着剤のようなイメージで活動しています。良く言えばコーディネーターかもしれませんが、要するにまちのお節介おばさんの役。普段の人つきあいから町内の困りごとや要望をキャッチして、誰と誰をつなげるか、誰が適任なのかを判断しています。組織化ということはあまり考えずに、ゆるーくつながっていたい気持ちが強いんですね。メールとLINEがあればいちいち集まらなくても大体用は足りますし。また、そのような関係性の方が参加し易いのではないかと思います。



■ 地域の居場所にとって大事なことは何ですか。

敷居が低く、気軽に集まれる場所でないだとダメで、自分たちの場所であるという意識があることが大事ですね。活動の継続のためには、企画に乗る人だけでなく、居場所の運営を企画する側の人間を育てることが大切です。企画を考える時にはお弁当を食べたり、お酒を飲んだり、ちょっと楽しいことをプラスすると良いですよ。

鎌倉にお店を構えて25年「パタゴニア鎌倉」の増山さんに地域での協働について伺いました。

■ 鎌倉市の「プラごみゼロ宣言」をサポートしていきたいと伺いましたが。

元々、フリースやサーフボードなどの石油由来の原料を使用してアウトドア用品を製造・販売しているので、海洋のマイクロプラスチック汚染などプラスチックごみの問題には関心と注意を払っていました。私たちとしては店頭での周知イベントを開催するなど行政が動きにくいところに対応して、前例を作るお手伝いできればと思っています。前例や市民の反響が大きければ次のステップにつながりやすくなりますしね。

■ 市民団体や地域との協働について伺います。

鎌倉市の紹介で「鎌倉のごみ減量をすすめる会」との話し合いが始まっています。次の店頭イベントでは「NPO法人游風」とコラボしてリユース食器でコーヒーを提供します。それから毎月、地元の商店街の人たちと月に2回若宮大路のゴミ拾いや裏の滑川の清掃活動をしたり、店先にプランターボックスを置いて、種からオーガニック野菜を育てたりして、結構楽しくやっています。今後は商店会との協力関係など地元とのつながりをもっと広げていきたいです。

■ 多様なセクターとの協働を進める上でコツはありますか。

いかに気持ちよく参加してもらえるか、巻き込めるか、を常に考えていますね。反対運動ではなく賛成運動が普通の市民の共感を生むと思っています。使い捨てプラのごみ対策については1社で頑張っても解決が難しいことなので市民・行政・事業者・NPOなどの連携が必要だと感じております。

■ 会社としてはどのような環境活動に取り組まれていますか。

気候変動問題に最優先で取り組んでいるので、鎌倉でもその問題に取り組んでいる市民団体があれば協働したいですね。それから「ツール会議」という宿泊研修を18ヶ月おきに行っています。この研修では、強い想いはあるけれどノウハウを持たない環境団体に対して、事業計画の立て方や広報の仕方などの学ぶ機会を提供するもので、日本ではもう10年以上続いています。



「いろんなカタチ鎌倉」の小宅さんに鎌倉市との相互提案協働事業について伺いました。

■ 初めての協働事業で大変だったこと、苦労したことは何ですか。

発達障害に関する情報誌の発行を考えていた時に、相互提案協働事業を知り、急遽応募することになって、事業計画の作成やプレゼンの準備などで慣れない事が多く手間取りました。複数の課にまたがる協働テーマであったため庁内の調整が大変だったのでは、と思います。採択が決まり、協働事業がスタートしてから担当者が異動になったこともあり、当初は「協働」に関する意識のズレを感じたこともありました。

■ 協働事業をおこなって良かったことがありますか。

新聞発行を軸に打合せやイベントを行うなど、応募を契機として私たちの活動が加速しました。協働がなければここまで活動の幅が広がらなかったし、スピード感も出なかったと思います。協働事業だからこそ市内全戸に新聞を円滑に配布できたので、団体単独での情報発信ではどれだけ市民に届けられたかわからないです。また、全戸配布の性格上、誰も傷つけないように言葉を選んで新聞製作を行ったので、私たち自身の表現スキルもかなり向上したと思います。新聞第1号の発刊後は庁内の調整もスムーズに進み、活発な意見交換もできたので、新聞第2号は市と一緒に作りあげた感があり、文字通り「協働」を実感できました。

■ 協働を進める上で大事なことは何ですか。

初めに意見や意識の相違はあっても協働のパートナーを否定したら、そこで対話が終わってしまうのではないのでしょうか。多様性を肯定することが大事で、それはまさに「いろんなカタチ」の精神ですね。この1年間を振り返ると、問題がマスメディアに取り上げられる機会も増え、発達障害に対する世の中の理解が進んだように思います。そういうタイミングで協働事業ができてとても良かったと思います。



いろんなカタチ新聞1号2号

センターからのお知らせ

センター休館のお知らせ

4月28日(日)から5月6日(月)は全日休館となります。ご利用いただく場合は、「時間外使用責任者登録」が必要となりますので、お申し出ください。

JR鎌倉駅地下道ギャラリー展参加団体募集

31年度のギャラリー展は、2回に分けて開催します。1回目が4月26日～5月7日、2回目が8月6日～13日で、10団体ずつ募集します。参加希望の団体は、申込用紙に記入の上、FAXにてNPOセンター鎌倉にお申し込みください。受付は、3月27日(水)～4月16日(火)です。

申し込み多数の場合は、調整させていただき連絡いたします。

NPOセンター鎌倉コピー機使用終了のお知らせ

NPOセンター鎌倉に設置のコピー機は5月いっぱいまで使用を終了いたします。今後はオフィス印刷機をご利用いただくこととなります(料金は安くなります)。コピーカードをお持ちの団体は、使い切ってくださいようお願いいたします。未使用分の残金は返金しますので、お申し出ください。

なお、NPOセンター大船のコピー機は引き続きご利用いただけます。

ゆうメール発送料金値上げのお知らせ

JPの料金値上げに伴い、NPOセンター鎌倉でご利用いただいている「ゆうメール」の発送料金を5月より値上げさせていただきます。詳細はセンターにお問い合わせください。

第3回利用登録団体懇話会報告

フェスティバル開催の時期、会場、コンセプト等をワークショップにより意見交換しました。主な意見はセンターHPをご覧ください。

センター設置ロッカーの空き状況

鎌倉センター：木製ロッカー1個(年間使用料500円)

鍵付スチールロッカー6個(年間使用料1000円)

大船センター：木製ロッカー1個(年間使用料500円)

新規登録団体の紹介(平成31年2月28日現在)

★**鎌倉で育つ**：子ども会館の今後の活用についてだけでなく、「鎌倉で育つすべての子どもが、鎌倉で育つてよかったと思えるまちとは」という課題について、学び、共に考える場を作っていきます。

★**きりんの会**：不登校や引きこもりのお子さんがいらっしゃる親御さんが社会から孤立してはいけないという思いから、「ゆとりある心で、楽しく子育てを」と発足し、勉強会や外部に向けての拡大講演会を開催しています。

★**サクラ**：鎌倉を訪れる外国人にちょっとした案内ができる程度の英会話ができるように、アメリカ人の講師のもと、ゆる～く勉強しています。

★**特定非営利活動法人日本サーチウォーク協会**：目的地に到着するためには便利にできているNTTの電柱番号を利用したウォーキング競技を企画します。詳しくは「サーチウォーク」で検索。

★**eco&reduce.club エコリ**：3Rリデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)という3つの活動を行う中でパソコンという機材を中心に再生する活動を行っています。

★**音楽で健康を考える会**：音楽を健康促進のために用い、会員や鎌倉市民の耳や体の健康維持を啓発し、難聴等の不全を予防する様々な試みをする活動をしています。

★**一般社団法人材木座自治連合会**：材木座地域の自治組織相互の連携と各自の基盤強化を支援し、社会の健全な発達に貢献するための活動をしています。

★**地球市民交流会**：在日外国人や帰国者など日本語を母語としない人たちの日常生活における無償の通訳派遣や多言語相談など、主に語学による支援をしています。

編集後記：今回、北鎌倉を散策する機会にめぐまれました。北鎌倉もちょっと足をのぼすと、住宅地のそのまた奥に、豊かな自然が良い形で残されたところがあります。山や森の緑を守りつつ、みんなが集える場所も作る、そんな活動を地道に続けている地元の方、市民団体の方たちの存在を目のあたりにしてきました。北鎌倉の魅力再発見でした。(麻)

NPOセンター鎌倉

〒248-0012 鎌倉市御成町18-10
TEL: 0467-60-4555
FAX: 0467-61-3928
E-mail: npo@chive.ocn.ne.jp

NPOセンター大船

〒247-0061 鎌倉市台1-2-25
(たまなわ交流センター1階)
TEL/FAX: 0467-42-0345
E-mail: npo2@abelia.ocn.ne.jp

平成31年2月28日現在 **利用登録団体数：375団体**

※ 利用登録団体の登録内容(連絡先・代表者・活動内容等)に変更があった場合は、速やかにお知らせください。